一般化されたオームの法則に関する電気物性の同時測定

Simultaneous Measurements of Electrical Properties in Generalized Ohm's Law [○]有坂 太一¹, 大塚 美緒子¹, 長谷川 靖洋¹ (1.埼玉大工)

Taichi Arisaka¹, Mioko Otsuka¹, Yasuhiro Hasegawa¹ (1. Saitama Univ.)

E-mail: arisaka@env.saitama-u.ac.jp

【はじめに】

ビスマスナノワイヤーの特性を明らかにする上で、物性測定を行うことが求められている。電気物性については、一般化されたオームの法則によって幾つかの物性値が記述される。電流密度 J,磁場 B,温度勾配 ∇T を全て考慮した場合、一般化されたオームの法則は次式で表される。

$$\boldsymbol{E} = \rho \boldsymbol{J} + S \boldsymbol{\nabla} T + R_H \boldsymbol{B} \times \boldsymbol{J} + N \boldsymbol{B} \times \boldsymbol{\nabla} T \tag{1}$$

ビスマスナノワイヤーを用いた測定が将来的な目標となるが、本研究においては、まず同一のバルク状ビスマスを用いて ρ , S, R_H , ρ_B , N の 5 つの物性値を測定し、n, p, μ_n , μ_p , 及びr の値を実験的に明らかにできる測定基盤を整える.

【実験方法】

Fig.1 に測定サンプルの概略図を示す. 多結晶ビスマス (純度 99.999%, $2.0 \times 2.0 \times 8.0 \text{mm}^3$) に銅電極, リード線, ヒーター, 差動熱電対 $(T \, \mathbb{D})$ を取り付け, アルミナ基板に接着する.

■ ゼーベック係数 S

サンプル上端部のヒーターに直流電流 I_H を印加し, サンプル両端に温度差 ΔT をつけ, サンプルの起電力 V_I を測定する. ΔT と V_I より, ゼーベック係数 S を算出する.

■ 抵抗率 ρ

4端子法により、サンプルに電流 I_1 を印加した時の電圧 V_3 を測定し、抵抗率 ρ を決定する.

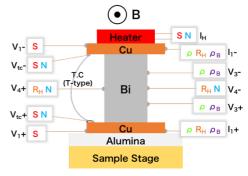


Fig. 1 Schematic diagram of measurement sample

\blacksquare ホール係数 R_H , ネルンスト係数N, 磁気抵抗率 ρ_R

磁場と垂直方向に、ホール測定の場合はサンプルに電流 I_1 を印加、ネルンスト測定の場合はヒーターに直流電流 I_H を印加してサンプル両端に温度勾配 ΔT を与える。電流と磁場に対して垂直方向の起電力 V_4 を測定し、ホール係数 R_H 、ネルンスト係数 N を決定する。ホール測定時に電圧 V_3 を同時に測定することで、磁気抵抗率 ρ_B の値を決定できる。

【参考文献】

- 1. M. Murata, A. Yamamoto, Y. Hasegawa, and T. Komine, Nano Lett, 17(1), 110-119, (2017).
- 2. Y. Hasegawa, Y. Ishikawa. T. Saso, H, Shirai, H. Morita, T. Komine, and H. Nakamura, Physica B 382, 140-146, (2006).
- 3. M. Otsuka, R. Homma, and Y. Hasegawa, J. Electron. Mater, DOI 10.1007/s11664-016-4955-x. 【謝辞】

本研究は、JSPS 科学研究費補助金基盤研究(B)の支援により行われた.